



自由律俳句協会ニュースレター



発行：自由律俳句協会

(このニュースレターでは自由律俳句協会の最新の活動状況をお伝えしていきます)

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

2025 年度自由律俳句協会総会のご報告

2025 年 11 月 24 日(月・休)、東京の渋谷区文化総合センター 大和田にて、自由律俳句協会総会が開催されました。総会時点での協会員のうち、当日の参加者とハガキで賛否・委任を寄せた会員を合わせ、個人会員が 42/58 名、団体会員が 7/9 団体で、会員の過半数を超えたため、総会は成立しました。当日の参加者は 14 名（うち 2 名はオンライン参加）で議事が進められました。

初めに佐瀬風井梧会長より開会のご挨拶があり、この 1 年に逝去された会員の原田智美氏、中村加津彦氏、野谷真治氏に黙祷が捧げられました。議長・平林吉明氏のもと、各担当者より報告・説明があり、2024 年度事業報告、2025 年度事業計画、会計報告・予算案、役員体制等が承認されました。

議事後には「第 7 回自由律俳句協会奨励賞」の贈賞式、「第 4 回自由律の泉賞」の表彰式、講演会が行われました。記念撮影の後、近所のお店で懇親会が催されました。

(報告とりまとめ：寺田和可)

【第 1 号議案】2024 年度事業報告

主な活動としては、ニュースレター&「自由律の泉」、機関誌『自由律の風』7 号、冊子「第 1 回自由律俳句大賞」の発行、イベント「対面&オンライン句会」、「文学フリマ東京 40」への出店、「第 7 回自由律俳句協会奨励賞」「第 4 回自由律の泉賞」の実施、ホームページや X での情報発信（X では機関誌との連動企画も）など。 ※秋のヨコハマ吟行は天候の都合で見送り、改めて機会を検討。

担当者から「対面&オンラインの句会では、大ベテランと若手が互いの句を認めて刺激し合えることを実感」「文フリのブース訪問者からは、自由律俳句に対する関心のある人が初めの一歩が踏み出せない状況が感じられた」「X を活用した機関誌の募集企画では 2 週間で 200 人以上、2000 句以上の応募があった。関心は高いが、それをどう会員増につなげていくかが課題」などが報告されました。

【第 2 号議案】2025 年度事業計画

今年度の主な取り組みとしては、「自由律の泉」「自由律の泉賞」の実施方法の修正を検討しています。「文学フリマ東京」は規模が拡大しており、ますます事前の告知が重要になっています。協会主催のイベントも含め、X などをうまく活用することが必要と考えられます。イベントでは対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド開催を今後も取り入れていく予定です。企画のバラエティを増やすため、賛同する会員が実行委員になっていただく形を推進したいと思います。ぜひご参加ください！

◆会計報告・予算案

前年度の収支では、郵便料金の値上がりによる送料の増大が大きく、会費の未収が多かったことが問題となっています。今年度の予算は、全員からの会費納入を見込んでも余裕のない収支になっているため、引き続き、納入をお願いしていきます。

【第 3 号議案】規約検討

今回の規約改正はありませんが、佐瀬会長より役員の方針的な定年制を考えるべきではないかと提案がありました。今後、皆さまと議論を重ねていきたいと思っております。

【第4号議案】役員体制

会長：佐瀬風井梧 副会長：平林吉明

会計：さいとうこう、平岡久美子 事務局：さいとうこう(兼任)、佐川智英実

企画・広報：寺田和可、杉本由紀子、平林吉明(兼任)、吉本知裕

地域連携：富永順子 会計監査：黒瀬文子 相談役：白松いちろう 顧問：富永鳩山

※ほかに、機関誌編集長：大川崇譜

▶返信ハガキ・参加者のご発言から

「協会主催の You Tube や日本中の自由律俳句を集めた年鑑（集成）など作っては？」「全体の収入を増やす必要があるのでは？ やはり 200 人くらいの規模にならないと」「機関誌の企画に“自由律”という型を感じたものがある。もっと柔軟に考えては？」「激増している不登校の子たちに自由律俳句が貢献できるのでは？」などのご意見をいただきました。時代の求めるデジタルの活用と、座の文学として俳句に期待される“顔を合わせての交流”をどう併存させていくかは、変わらぬ課題です。

◆「第7回自由律俳句協会奨励賞」の発表・贈賞式

今回の奨励賞は「おのぎとポピーのこのくらい」（おのぎのあ氏、白石ポピー氏）に贈呈いたしました。両氏は SNS 上で様々な企画を試み、広く拡散することにより自由律俳句の裾野を広げ、多くの人々にその存在を知らしめた功績は大きいものがあります。2025 年には紙媒体の句集『あの時撃ち落としていただいたかもめです』（白石氏）、『こぼれる』（おのぎ氏）などを刊行、自由律俳句のボーダーを越えて精力的に発信されています。（平林吉明）

◆「第4回自由律の泉賞」の発表・表彰式

今回は 33 名 65 句の参加がありました。投句者による互選方式で、作者名を伏せた選句用詠草集から各自 5 句、うち 1 句を特選として選んでいただき、その得点（特選は 2 点）の集計により、次の上位句の作者に賞が贈られました。また、特別賞として「深田紫洋賞」「口語俳句賞」が贈られました。

〈第1位〉	みんないて明るかった裸電球の灯の下	佐瀬 風井梧（千葉県）
〈第2位〉	線路の消えたトンネルが口を開けている	黒瀬 文子（埼玉県）
〈第3位〉	じいちゃんのうちわのじいちゃんの風だ	さいとう こう（東京都）
〈入賞〉	沈む村やさしくなかった自分がある	原 さつき（愛知県）
	不器用なおにぎりに手の匂いがある	金澤 ひろあき（京都府）
	目も耳も杖ついて歩く今日の道	富永 鳩山（山口県）
	ぶらんこが吊り下げたこの町の閑散	久光 良一（埼玉県）
	おろおろ生きてそろそろ帰ります	平林 吉明（神奈川県）
	死んだ兔を埋めた土から新芽	青井 こおり（埼玉県）
	半ドアの犯人はいつも黙秘権	佐川 智英実（山口県）

特別賞〈深田紫洋賞〉家路に浮かぶ銀河鉄道を友とする 大岳 次郎（神奈川県）

特別賞〈口語俳句賞〉ずっと冬のままでの休耕田 松尾 貴（山口県）

★応募作品と鑑賞文をまとめた冊子は、参加者に配布するほか文学フリマにも出展します。
PDF 版は協会ホームページの電子書棚に収める予定です。

◆講演「住宅顕信さん」井上敬雄氏（「九官鳥句会」主宰）

早逝した住宅顕信と親交のあった氏が直接やりとりされた手紙・葉書などの資料をご紹介いただき、生前の顕信とその没後に句集『未完成』を世に送り出した池畑秀一氏のエピソードなどもご披露いただきました。それぞれの強い思いに接し、顕信を直接知る方からお話を伺う貴重な機会となりました。

<速報>「文学フリマ東京 42」に出店決定！

今回の文学フリマ東京は下記の日程で開催され、自由律俳句協会として出店いたします。句集などの出品をお考えの会員は準備をお願いいたします。詳細は次号ニュースレターでご案内します。

開催日時：2026年5月4日(月・祝) 12:00~17:00

入場料：1,000円(前売)・1,350円(当日スマチケ)・1,500円(当日窓口) ※18歳以下入場無料

会場：東京ビッグサイト 南1-4ホール 〒135-0063 東京都江東区有明3丁目11-1

(さいとうこう)

機関誌『自由律の風8』句稿・原稿募集のお知らせ

次号の機関誌『自由律の風8号』に掲載される句稿・原稿の募集をいたします。

句稿・原稿の募集、およびその記入方法についての詳細を、「個人会員」「結社・グループ会員」それぞれのみなさまに同封の別紙でお知らせしております。表面・裏面ともお読みいただき、ご協力をお願いします。締切は2026年3月31日です。

・封書でお送りのかたは用紙に楷書でご記入ください。

・eメールのかたは、送受信のトラブルをできる限り無くするため、メール本文に記入／文書ファイルの添付、いずれかで送信してください。また、迷惑メールとみなされないように、メールのタイトル欄には何らかご記入ください。

8号の発行は、2026年7月を予定しています。

(機関誌編集長 大川崇譜)

<追悼> 野谷真治氏

自由律俳句協会会員で、協会設立以来6年にわたり役員を務められた野谷真治氏が2025年11月4日に急逝されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆野谷真治さんのこと

突然我々の前から姿を消した野谷真治さんは郷愁を纏った静かな男でした。

声高に自分の意見を主張することはありませんでしたが、自由律俳句に対する揺るぎの無い確信を胸の内に秘めていて、決して紛い物ではない的確な句評は、五十年に及ぶ句歴が物語っており、その深い洞察は誰よりも信頼のおけるものでした。高校時代から詩を書き始め、その後めぐり会った来空氏に大きな影響を受けながらも、それに感化されることなく野谷真治ならではの自由律俳句を貫き通しました。彼は短歌も川柳も定型俳句も自由律俳句も短詩として一括りにしていました。一行詩、それはコトバで書くマンガ、自己の感性に率直に忠実に言葉を信じ、言葉を愛し、言葉を自在に操る術を心得ていました。

出版社「蒼天社」を立ち上げEYEMASKや自費出版の句集の編集に尽力し、様々なギャラリーで展示を行いそれらの出版物の啓蒙に努めていました。

「雨止んだんだなあと冬の街」冬の街の雨上がりの感慨を何気なく詠っただけの句ですが、空を見あげるその姿が何処か寂しさに包まれていて、ひとりの人間の言葉では語り尽くせない人生観がやるせなく滲み出ているように思います。

2025年11月4日、野谷真治さんは雨上がりの街からひとり旅立ってゆかれました。

(平林吉明)

自由律俳句関連のお知らせ・ご案内

◆山頭火ふるさと館企画展「自由律俳句に詠まれた出会いと別れ 旅路と別れのことばを辿る」

自由律俳人 種田山頭火は大正 15 年に一笠一鉢の姿で行乞の旅に出て以降、生涯を放浪の旅に捧げました。本企画展では、山頭火ら自由律俳人が詠んだ出会いや別れ、旅立ちに関する句を直筆資料とともに紹介しています。

会期：令和 7 年 12 月 19 日(金)～令和 8 年 3 月 29 日(日) ※休館：毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)

会場：山口県防府市・山頭火ふるさと館 開館時間：9:00～17:00 <https://hofu-santoka.jp>

◆「第 2 回令和俳人展 銀座の真ん中で今活躍中の俳人による俳句展」

俳人たちが自作俳句を自筆で書や俳画の作品にし、ギャラリーで展示するという俳句展(世話人：藤田三保子・市原正直)。サザンカの石川聡さん、大川崇譜さんが出品されます。

会期：2026 年 1 月 26 日(月)～31 日(土) 12:00～19:00(最終日 16:00)

会場：東京都中央区銀座 6-7-16 第 1 岩月ビル 403 号 ギャラリーGK <http://gallery-gk1.jimbo.com>

自由律俳句協会からのお知らせ

◆「自由律の泉」「自由律の泉賞」へのご意見をお聞かせください

投句欄としてニュースレターに同封している「自由律の泉」、これまでに 4 回開催した「自由律の泉賞」(互選)について、リニューアルを検討しています。「自由律の泉」を通信句会にという案も出ていますが、双方を併せて考えてできるだけ選択の幅を広げたいと思います。多くの方が参加しやすく、より楽しく、新たな仲間入りもしやすくを目指します。忌憚のないご意見をお寄せください。ヒアリングなども考えておりますので、ご協力をお願いいたします。(平岡・寺田)

◆協会の公式 X より フォロワー数は 1,217 となりました(2026 年 1 月 4 日現在)。

◆会計より会費納入のお願い

会員の皆様には振込用紙を同封しております。今年度の会費納入をよろしくお願いいたします。

※昨年度の会費のお支払いが未了となっている方がいらっしゃいます。協会の活動継続のため、お手数ですが、速やかにご納入をお願い申し上げます(該当の方にはその旨のお知らせを同封しております)。

※また、日頃より温かいご寄付・賛助金を賜り、心より御礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援・ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。(さいとうこう)

年会費：個人会員 4,000 円(学生は 1,000 円) 結社・グループ会員 3,000 円

<会費納入先>……振込用紙以外の振込み方法も可能です

郵便振替口座 口座記号番号 00180-9-417884 加入者名「自由律俳句協会」

ゆうちょ銀行 記号 1 0 0 5 0 番号 0 3 9 6 3 1 2 1 自由律俳句協会

他行より振込の場合、支店名：〇〇八(ゼロゼロハチ) 種類：普通口座番号：0 3 9 6 3 1 2

口座名義：自由律俳句協会

自由律俳句協会 事務局

<連絡先>〒124-0013 東京都葛飾区東立石 4-2-15 ライオンズマンション立石リバーサイド 320 西藤方

※2025 年 4 月より上記の住所に変更になっています。

e-mail: jiyurituhaiku@gmail.com

ホームページ：<https://www.自由律.com/> X(旧ツイッター)：自由律俳句協会@jihaikyo